



組合主催の三管協組防災訓練を開催

～三多摩管工事協同組合～



渡辺部長の号令で参集訓練が開催される



号令のもと参集する組合員

3月12日(日)、組合主催という初めての試みの防災訓練を、立川市曙町運動公園にて開催しました。

参加者は、組合員180名のほか、一般市民76名、来賓等111名、計367名でした。

開催に当たっては、場所が中々決まらず、渡辺防災・災害対策部長が色々なところと交渉した結果決まったものです。場所は十分な広さで、駐車場も確保できました。

当日は好天に恵まれ、8時には組合員の皆様が集合し、渡辺部長から訓練概要の説明を受けました。

定刻の9時になると、卯木専務理事の司会の元、東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3、震度6強の地震が発生して、東京都水道局より協力要請があったことを想定し行うことを説明し、渡辺部長が本部テント前に立ち、参集訓練か

ら開始しました。

参集訓練には、27支部180人の組合員と神奈川県管工事業協同組合が参加し、各支部の作業車とこの日のために用意したブルゾンと帽子を着用し、支部のプラカードを持った組合員が本部前に整列しました。

初めに東日本大震災の被災者に対し黙とうをささげたのち、各支部の代表者が、参集した人数を渡辺部長に報告し、最後に渡辺部長から松田災害対策本部長に報告して、参集訓練を終了しました。

続いて応急復旧訓練に移り、地震の為に配水管のサドル分水栓が引っ張られ、穿孔穴が露出して漏水していることを想定し、既設のサドル分水栓を撤去して、新たにサドル分水栓を取り付け、穿孔して既設給水管に接続するというものです。



参集の報告をする各支部代表者



水道管から漏水しています



組合員が作業に入りました



山間部に人が閉じ込められて助けを求めている

この訓練は、多摩支部、町田支部の皆さんが行いました。

次の訓練は、新たに布設した配水管から、各家庭に給水管を引いて、給水栓を設置するというもので、配水管に設置したサドル分水栓からステンレス給水管で分岐し、ボール弁を設置してそれ以降は塩ビ管で配管し、給水栓を取り付けて通水するというものです。この訓練は、あきる野支部、神奈川県管工事業協同組合、町田支部の皆さんが行いました。

最後の訓練は、宅地内の給水管が漏水しているものの、手前にバルブがなく水を止めることができないので、凍結工法により一時的に水を止めて、その間に漏水箇所を修理し、凍結させた部分を解凍

して通水するというものです。

凍結工法は、炭酸ガスを使ったものと、液体窒素を使ったものと二種類行いました。

この訓練は、八王子支部、立川支部、日野支部、町田支部の皆さんが行いました。

これで応急復旧訓練が終了したわけですが、大変順調に進行したことで、ドローンの為に応急復旧訓練で使用した配水管や給水管を撤去するため、暫時休憩いたしました。

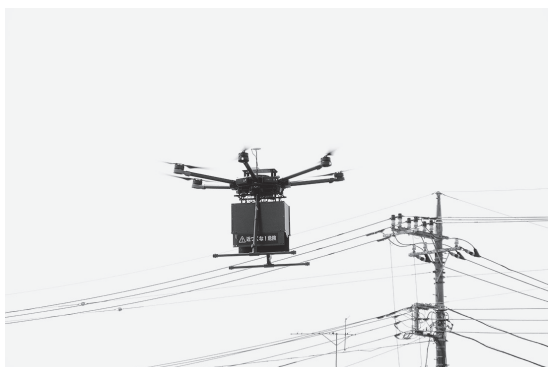
いよいよドローンを使った訓練になるわけですが、伏見あきる野支部長がシナリオを描き、奈須国分寺支部長の説明により、佐藤国立支部長、堤多摩支部長、組合事務局が参加して行いました。



講評をする松田災害対策本部長（三管理事長）



小磯自民党多摩水道事業政策研究会会長の挨拶



ドローンが飛んできました

地震により道路が遮断されたことにより、山間部に人が閉じ込められ、食料や水がないためドローンにより物資を輸送するというシナリオです。

会場の真ん中で、堤多摩支部長や組合事務局が被災者となって助けを求めるとき、ドローンが飛来して東京水を運搬し、ペットボトルの水を飲んで喜びの声をあげるというものです。

会場の皆さんも、ドローンが飛来し、自動的に着陸する様子を驚きの目で見、終了後大きな拍手が起きました。

その他、水道局や防災メーカーによる展示が行われ、水道局からは、給水車が出場し、災害時飲料水のパック詰めの実演も行われました。



多摩水から給水車も参加

これで訓練が終了し、松田災害対策本部長の講評と、小磯多摩水道事業政策研究会会長、池田多摩水道改革推進本部長のご挨拶がありました。

文末になりますが、参加いただいた組合員の皆様はもちろん、お忙しいなか事前の打合わせ・準備・当日の世話役・片づけ等にご尽力頂きました防災・災害対策部の皆様、支部長をはじめとする関係者の皆様、ご多用中にも関わらずご来席賜りましたご来賓、関係団体の皆様、会場を貸していただきました立川市に本紙を持って厚く御礼申し上げます。

出典：三多摩管工事協同組合発行

「三管ニュース」第556号より抜粋